

事例1 現代文

「想像」と「共感」を発揮し、 イノベーションを興す経験をさせる

東京都・私立玉川学園中学部・高等部 後藤芳文

1977年生まれ
教職歴31年。同校に赴任して28年目。



学校プロフィール ◎設立 1929年(昭和4年) ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 高等部1学年約230人 ◎2020年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、東京医科歯科大、東京工業大、東京大などに8人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ260人が合格。海外大学進学20人。
◎URL <https://www.tamagawa.jp/academy/>

授業のねらいと内容

イノベーションを興す 思考の過程を国語で学ぶ

後藤芳文先生は、2020年2月、9年生(中学3年生)の現代文の授業で、「共感マップ」(*1)と「創造的選択肢」(*2)を活用し、困った人を助けるためのアイデアを提案する単元「イノベーターになろう」を行った。共感マップは、対象者への共感を導くための思考ツールで、国語では、小説の読解で登場人物の心情の変化をつかむ時などに求められる想像力につながると考えた。一方、創造的選択肢は、交渉学において、両者が利益を得られる選択肢をつくるための思考の手順を示したものであり、評論の読解で行う具体と抽象の往還に通じる点があった。

「国語は、イノベーションとは無縁の教科だと捉えていましたが、思考の過程を学ぶことで、生徒が新しい何かを創りあげるために必要な力を育めるのだと気づきました。生徒に探究的な学びを通してイノベーションを興す経験をしたいと考え、単元計画を練りました」

困った人が置かれている状況として、「老人になったときにあるとよいもの」など、6場面を設定。当初、児童労働などの国際問題を取り上げていたが、国語科の他の教師から、「生徒にとって身近な場面でない」と、想像・共感することは難しいのではないかと指摘された。変更した。また、アイデアを出してから2つの思考ツールを学び、再びアイデアを練るといって授業展開にした。

「他校の教師からもヒントを得て、生徒が、試行錯誤を通して思考ツールの有効性を実感できるように授業展開としました。自校や他校の教師との対話を通じて得られたことを基に、よりよい授業づくりができていくことを実感しました」

9年生(中学3年生) 国語・現代文「イノベーターになろう」概要

【設定時数】全4時間 【テーマ】困った人を助けるために共感と想像を形にする 【単元目標】想像力、共感力、創造力、分析力、抽象化・具体化能力、合意形成力、説明力等の育成

時数	内容	授業の流れ
1	イノベーションとは何かを学ぶ	①過去にどんなイノベーションがあったのかに触れる。 ②イノベーションによって生活がどう変化したのかに触れる。 ③困っている状況を選ばせる。 ④選んだ状況ごとに分かれて、チームをつくる。 ⑤チームで話し合い、困っている人を設定し、困っていることを解決する具体的な方法を話し合う。 ⑥進捗状況の確認と次時の予告。
2	チームごとに、困っている人を助けるアイデアを考える	①本時の授業の展開を説明する。 ②共感マップについて説明する。 ③創造的選択肢について説明する。 ④2つの方法を活用して、困っている状況をもう一度設定し、解決策を話し合う。 ⑤どこまでできたかの進捗状況を確認。 ⑥次時の予告。
3	アイデアを考える	①前時の続きで、困っていることの解決策をチームで検討する。
4	チームごとに、アイデアを発表	①本時の授業の展開を説明する。 ②発表の準備をする。 ③チームごとに発表する。

*後藤先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

『イノベーターになろう』

目標：身近にいる困った人を助ける物のアイデアを生み出す

困っている状況の設定

- 1 子どもの頃であればよかったもの
- 2 老人になったときにあるとよいもの
- 3 目が見えない人にあるとよいもの
- 4 耳が聞こえない人にあるとよいもの
- 5 膝先で困った場合にあるとよいもの
- 6 自分で考える

参考になる例(発展途上国での水くみ)

授業で使ったワークシートの1枚目。「困っている状況」として、6つの場面を設定。同じ場面を選んだ生徒同士でチームを組んだ。また、水を容器に入れ、それを頭に載せて、歩いて運んでいた状況から、転がせる容器を作り、簡単に水を運べるようにしたという発展途上国における改善例を紹介。困った状況を改善する方法を考えるヒントとして、生徒に示した。

*学校資料をそのまま掲載。

*1 アメリカのXPLANE社が開発した思考ツール。共感する対象者が何を考えているか、何を聞きたいかなどを想像しながら図に書き込み、具体的にイメージを膨らませていくツール。 *2 交渉学で用いられる手順の1つで、問題や目的を明らかにし、一般的な解決法を考えてから、具体的なアイデアを出していき、相手も自分も受け入れられる選択肢をつくる方法のこと。

授業の工夫

ゼロから創る面白さと
苦しみを経験した生徒たち

授業では、同じ場面を選んだ生徒同士でチームを組み、取り組んだ。

4時間目の発表では、「GPSと連動し、その国のルールやマナーが送られてくるアプリ」「高齢者が外し忘れても大丈夫な数時間で溶けるコンタクトレンズ」といったアイデアが出され、どのチームも熱心に提案していた。振り返りシートには、「発想力とチームワークを発揮できた」「多様な立場から考えることができた」「1つのことにも様々な視点があった」

あると分かった」といった声が寄せられた。自分たちでゼロから考えて形にする授業に、生徒が面白さを見いだしていた様子がうかがえる。

生徒は、生みの苦しみも感じていた。例えば、共感マップを書く場面では、「共感の対象」の設定が漠然としていたために、その他の行動や心情の項目を想像できなかつたり、対象を絞れても、想像が十分できずに具体的に書けなかつたりするチームがあった。後藤先生は、「どんな場所で、いつ困るのかな?」「今日の授業は特別に、スマホで調べてOK」と声をかけた。

したつもりでしたが、その状況に関する知識が乏しいと、想像や共感をしにくいと分かりました。本校で力を入れている市民教育では、人と人とを結びつける方法として共感を重視しています。国語の授業でも、市民教育につながる学びができるのだと感じました」

今後の展望

自分で答えを探し出せる
思考法を身につけさせたい

生徒からは、「困った人に実際に話を聞きたい」「アイデアを実現させる時間がほしい」といった要望も

上がるなど、後藤先生は授業に大きな手応えを感じた。

「授業時数が4コマと少なかったため、思考ツールの活用を中心にしてきましたが、今年度は、授業時数を確保できたなら、対象者を調査する時間と、考えたアイデアが実用化されていないかを調べる時間を確保し、より独自性のある提案ができる活動にしていきたいと思っています」

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、同校も3月から臨時休業し、オンライン授業を実施してきた。国語科では、教科学習とともに、国文学研究資料館が配信した「日本古典と感染症」の動画を生徒に視聴させ、感染症対策について考察させる課題なども出してきた。

「課題設定の仕方やワークシートを工夫すれば、生徒は自分の力で探究を深めることができます。これまでに、物事の考え方を体系立てて指導する機会は、授業であまりありませんでした。しかし、これからの社会では、自分で答えを探さなければならぬ場面が増えていきますし、自分で考えることが重要になります。そうした場面で役立つ思考法を育む授業を、国語でも引き続き実践していきたいと考えています」

生徒の声



出し合った考えを整理し、
説得力のあるアイデアにできた

高等部1年生 井上史子

私たちのチームは、「旅先で困った場合にあるとよいもの」を選び、道路標識を和訳して表示する機能などがついたカーナビを提案しました。共感マップや創造的選択肢で段階的にみんなで考えを出し合い、整理することで、そのアイデアを選んだ理由が明確になり、説得力のある提案ができると感じました。ただし、実際に困っている人に話を聞けば、もっとよいアイデアになるはず。自分たちの想像や共感と、調査の両方が必要だと思いました。高校では、高齢者施設の訪問や洋服のリサイクル活動などに参加する機会が増えています。それらがより役に立つ活動となるよう、自分でアイデアを提案できるようになりたいです。



日常生活でも情報を
整理して考えられるように

高等部1年生 松井了子

ゼロから何かを創ることは、授業では初めての経験で、思いつきを具体的な形にするのは大変でした。でも、みんなで意見を出し合い、形にしていく過程はとても楽しく、私たちのチームは、「子どもの頃にあればよかったもの」をテーマに、小学校低学年を想定し、迷子になった際に誘導する、GPSを利用したスマホアプリを提案しました。

創造的選択肢作成の順番通りに考えていくと、考えが整理されていき、子どもが道に迷っているシーンを具体的にイメージできて、アイデアがまとまりました。高校1年生から「自由研究」(*3)が始まりますが、そこで自分の考えをまとめることにも使えそうです。また、日常生活でも、例えば料理を作る際など、情報を整理して順位づけし、取り組めるようになったと思います。

*3 玉川学園では、小学5年生～高校3年生において、児童・生徒が自分でテーマを設定して研究に取り組む探究学習を実施している。中でも、高校1～3年生では、3年生での論文作成を目標に、「総合的な探究の時間」で行われる「自由研究」の時間を使って専門的に探究を深めていく。